

平成 3年11月15日

発行 青梅市文化財保護指導員連絡協議会

青梅市郷土資料室

(青梅市駒木町 1-684 Tel0428-23-6859)

市内の寺院のいろいろ

市内 60 余りの寺院には、江戸時代以前に建てられた多くの貴重な門が残されています。その遺構の中には、国の重要文化財のもの 1 棟、都有形文化財のもの 1 棟、市有形文化財のもの 4 棟を数えます。門には柱が 2 本のものや 4 本のものなど、また 1 階建てや 2 階建てのものなど色々な構造形式のがあります。市内に残る江戸時代以前の遺構も同じように種々の構造形式のものがありますが、どの寺院の門がどんな構造形式のものであるか古刹のそれを中心にここで紹介します。寺院を訪れた折りに門を鑑賞される参考となれば幸いです。

◎ 四脚門（しきゃくもん）

この門は四足門（よつあしもん）ともいい、本柱が 2 本その前面に 2 本、背面に 2 本が建つ形式のもので、普通、桁行が 1 間で扉口（入口）が 1 戸からなり、正式には一間一戸四脚門といっています。市内にはこの形式の門としては、都指定の金剛寺の表門、市指定のものとしては成木の延命寺、畑中の地藏院、日向和田の明白院のそれぞれや海禅寺の総門、その他乗願寺、聞修院、信浄寺、玉泉寺などの門があり、10 棟を数えます。

◎ 八脚門（はっきゃくもん）

この門は桁行が 3 間あり、中央の 1 間に扉口があって本柱は 4 本、その前面に 4 本、背面 4 本が建ち、別に八足門（やつはしもん）と呼んでいます。市内には国の重要文化財指定の塩船観音寺と成木の安楽寺のもの 2 棟があります。

◎ 薬医門（やくいもん）

桁行が 3 間又は 1 間の主柱に扉口を、後方に控柱を設け、棟木（屋根の最頂部の横木）を主、控柱の中間に通してある門です。市内のものはすべて 1 間の形式で、これを一間一戸薬医門といい、今寺の報恩寺、成木の安楽寺、今井の正福寺などの門 5 棟を数えます。

◎ 楼門（ろうもん）

この門は 2 階建てになっており、屋根は上層だけ付いていて中間に縁が回らしてあります。桁が 3 間のものは三間一戸楼門といい、天寧寺の山門海禅寺の山門がこれにあたります。また、桁が 1 間のものは、一間一戸楼門といい今井の薬王寺の 2 階に鐘が吊るされている門が、これにあたります。

◎ 唐門（からもん）

屋根が唐破風になっている門で、その形が前面のを向唐門、側面のを平唐門といい、天寧寺の中雀門のは向唐門にあたります。

◎ その他の形式の門

その他の形式の門としては、棟門（むなもん）として西分の宗徳寺の門、長屋門として安楽寺の門があります。

(文責 大沢清吾)